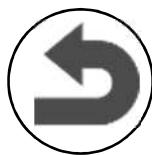


見直し案



まちゅんどプロジェクト

「まちゅんど」 =待ってます、歓迎します

【プロジェクト内容】

子どもたちが、島に居住している間に、島の歴史、文化、自然、特徴、魅力に触れる「郷土学」と、島にある仕事や島に必要な仕事を知る「職業学」について学びます。この学びを通じて未来を担うための「人づくり」と、島を離れても継続的に島とのつながりを持つ「関係づくり」、島に戻ってきたくなる「場所づくり」を行うことによって、若者が島に帰ってくる環境を構築します。



【未来の暮らし】

島に「郷土塾」ができました。子どもも大人も島について学び、島の未来について考えます。今まで普段の暮らしで触れていなかった自然のことや、昔の文化を改めて学ぶと、当たり前の暮らしの中に、他の地域にはない自然の恵みと多くの知恵が詰まっていることがわかります。「郷土塾」には観光客や島外の人も参加できるので、島民とのつながりを通じて島の暮らしに興味を持つようになり、島のことが大好きになった人々は繰り返しこの島に来て、地域のための活動に参加してくれるようになりました。そして郷土塾から新しい活動が生まれるようになりました。例えば島の絶滅危惧種の植物を復活させるため、毎年1つチームを作り、違う植物を1つ選んでそれを育て広げる活動です。これには長い年月がかかりますが、島の豊かな自然を取り戻し、次世代に引き継ぐために、みんなそれぞれ担当する植物について深く学び活動を続けています。郷土塾のおかげで島外に進学した若者も、島のことが気になり島に戻って暮らしたいと思う人が増えました。島内企業でインターンシップを体験することで、島に貢献したい気持ちも芽生えてきます。今ではそんな郷土愛にあふれたUターン者が増え、島は若者の笑顔と活気に満ち溢れています。そして、そんな島で暮らしたいと、ポジティブな移住者も増えています。

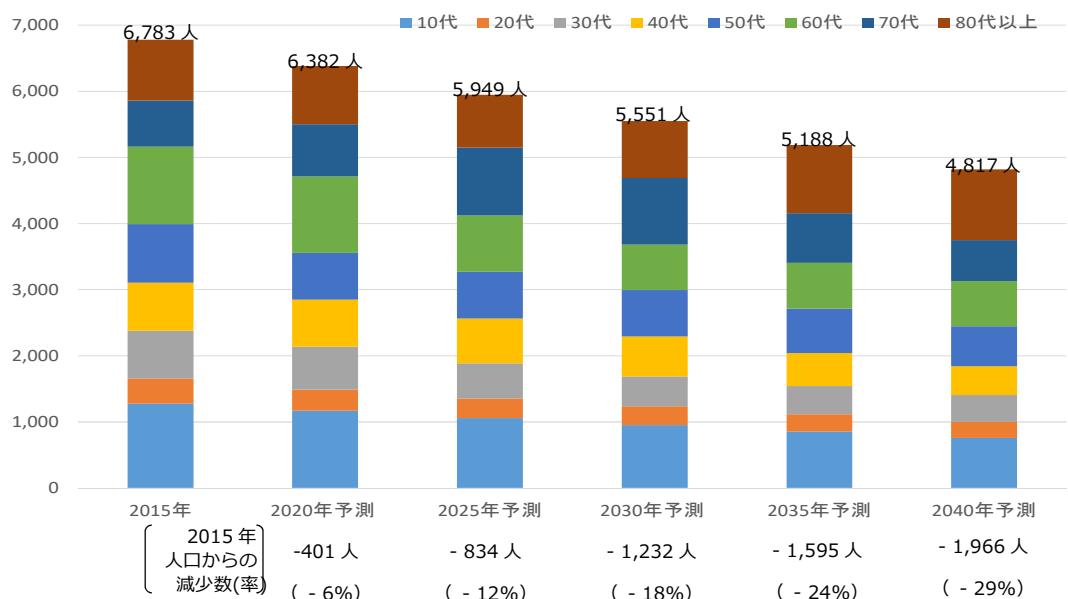


見直し案

【課題】

わが国では、東京一極集中型の人口流入状態が続いている一方で、地方においては若年層の人口流出と急速な少子高齢化による人口減少に歯止めが効かず、地域の衰退を招いています。和泊町も例外でなく 2040 年の人口は 4,817 人まで減少すると予想されており、生活関連サービスの縮小や行政サービス水準の低下、空き家・空き店舗の増加、地域コミュニティ機能の低下など、様々な影響が懸念されます。

和泊町の将来推計人口の推移



【メリット】

- 「郷土学」を学ぶことで、島に愛着を持つ子や島に関する知識を持った大人が増えます。
- 進学や就職などで島を離れた若者が島とのつながりを維持することで、郷土愛が育まれ、帰りたくなる場所として心の中に生き続けるほか、島外で島のために活動する若者が増えます。
- Uターン者、移住者が増え、多様な経験、知識、アイデアが島に持ち込まれ、新たな事業、産業が生まれることで、地域経済の活性化が期待されます。

